

・「みどりの日」がなぜ「昭和の日」に？ 4月29日はこう変わった

今日4月29日は祝日「昭和の日」ですが、昭和前半は「天長節」(1927～1947年)、その後は「天皇誕生日」(1948～1988年)、昭和天皇崩御後は自然の恩恵に感謝する「みどりの日」(1989～2006年)になり、さらに「昭和の日」(2007年～)と変わりました。4月29日は変遷を繰り返しました。

「2024年4月から時間外労働の上限規制が適用される建設業への影響について」

2024年4月以降から、建設業に時間外労働の上限規制が適用されます。

おそらく数年前から建設業各社対応をしてきましたが、実際にはこの規制をクリアする目処が立っていない企業も多いと聞きます。

高騰し続ける建築費にも影響するこの建設業の2024年問題に、業界全体も未だ混乱しているのが現状でしょう。

3月19日の日刊建設工業新聞様より

「全圧連／現場作業は午後3時まで施工計画で配慮を、ゼネコンに要望書送付」

全国コンクリート圧送事業団体連合会(全圧連、佐藤隆彦会長)は、4月に時間外労働の罰則付き上限規制が適用されるのを踏まえ、4月以降の現場での圧送作業時間の終了時間を午後3時までとする要望書を、と。

詳細は全圧連様の3月18日のトピックスにて

<https://www.zenatsuren.com/relays/download/1/472/216/2438/?file=/files/libs/2438//202403180819287672.pdf>

(一社)全国コンクリート圧送事業団体連合会では、令和6(2024)年4月に建設業に適用される時間外労働の罰則付き上限規制において、コンクリート圧送事業者が規制を遵守し働き方改革を推進できるよう、4月以降の現場において圧送作業時間の終了時刻を午後3時までとする要望書を、(一社)日本建設業連合会ならびに(一社)全国建設業協会傘下の大手ゼネコン本支店に発送しました。

元泥棒が明かす、役に立たない防犯対策4選

住宅に侵入して家主に暴行や殺傷などを加えて盗みを働く凶悪な強盗事件が相次いでいます。強盗犯から身を守るには、住宅の防犯対策を強化する必要があります。泥棒の手口を知れば、防犯対策を立てやすくなるかもしれません。

今回は、元泥棒の体験談から有効な防犯対策を探った記事を取り上げます。元泥棒は、12歳で「盗っ人の道」に入り、30歳代半ばまで「稼業」としていました。その間に警察に3度捕まり、延べ10年以上にわたって服役しました。

元泥棒が足を洗って30年ほどたった頃、警視庁から防犯活動への協力を要請されました。以来、住宅の防犯対策に役立ててもらおうと、自身の経験を語るようになったのです。そんな元泥棒が明かした“役に立たない”防犯対策を紹介します。

1つ目は、窓に取り付けた“脆弱”な面格子。元泥棒は、事前の下見を繰り返す慎重なタイプでした。ある住宅の下見では、浴室の窓に付いた縦組みの面格子が目にとまりました。面格子は上下6カ所をビスで留めただけの構造です。元泥棒にとって、簡単に取り外せるものでした。

犯行当日。元泥棒は、家中の明かりが消えた深夜、敷地内に忍び込みました。浴室も真っ暗で、窓は開いていました。浴室が一番人目に付かない場所にあります。元泥棒は浴室からの侵入を決断。持ってきたドライバーを使って、窓の面格子を取り外しました。かかった時間は1～2分。窓をゆっくり開け、浴室に右足を踏み入れました。途端に、「キヤー！」という叫び声。入浴中の女性と鉢合わせしたのです。私はあわてて顔を隠し、一目散に立ち去ったので、つかまらずに済んだ。相手が男だったらと想像すると、いまでも震えが走る。

2つ目は、玄関先などにいる番犬。元泥棒は、番犬を飼っている家でも、侵入を諦めたことはほとんどありませんでした。下見のときに餌を何度か与えれば、大概の犬は懐いてほえなくなるからです。ただ、ある家では番犬にすごく懐かれ、元泥棒が下見で姿を見せると、番犬が喜んでほえるようになったのです。

そこで、元泥棒は番犬に気付かれない裏側の屋根から侵入することを計画。犯行当日、地面から外壁に沿ってまっすぐ延びる縦どいを右手でつかみ、その左側に立つ木を左手でつかんで、するするっと登りました。所有時間は1分足らず。屋根に登ると、現金のある可能性が高い寝室の位置の目星を付けました。瓦を1枚ずつ4枚めくり、ホチキス留めされたベニヤ板を剥がして、天井裏に降り立ちました。

3つ目は、これみよがしに設置した防犯カメラ。ある大きな屋敷では、正面の門扉と玄関扉に防犯カメラを1台ずつ取り付け、真っ黒な番犬に見張らせていました。さらに、バラ線を張り巡らせた高さ約2メートル半のブロック塀で、敷地の全面を囲っていました。バラ線は複雑に折り曲げられ、高さが50センチほどありました。

一見ガードが堅そうな家ですが、元泥棒は下見のとき、防犯カメラのある正門の門扉からやすやすと侵入しました。防犯カメラが“むき出し”の場合、どこがカメラの死角か、プロならすぐに分かるのです。元泥棒にとって、番犬を手なずけるのはお手のもの。番犬が侵入の障害にならなかったことは、言うまでもありません。

4つ目は、警備会社のステッカー。「警備会社のステッカーを貼っている家は、金持ちをアピールしているようなもの。やる気をそられた」。元泥棒はそう振り返ります。“塀”の中で知り合った外国人窃盗団のボスも、警備会社のホームセキュリティサービスを受けている住宅ばかりを狙っていました。

ボスによると、警備員が駆け付けてくるまでの時間を予測できるので、ホームセキュリティを入れていない家よりも安心して盗みを働けたそうです。窃盗団は下見のとき、わざと警報を鳴らし、警備員が何分で駆け付けるのかを確かめていました。「警備員の到着にはどんなに早くても5分以上かかる。その前に立ち去る」。ボスは自慢げに話していました。そんな窃盗団に引導を渡したのは「近所の目」でした。